



モジュール12. 最後の数日間のケア

教育時期: 2年目前期

教育方法: 講義・ケーススタディ・自習



12-1) 身体的な変化

■ 目的

身体的な変化を評価と管理について理解する。

■ 大項目

- | | |
|----------------|---------------|
| (1)衰弱・全身倦怠感の増強 | (5)意識障害 |
| (2)経口摂取 | (6)せん妄 |
| (3)呼吸困難 | (7)死前喘鳴 |
| (4)痛み | (8)死の直前に起こる変化 |



12-1)-(1) 衰弱・全身倦怠感の増強

- 活動性の低下に対する援助
(清潔行為、身の回りの整理・整頓)
- 排泄行為の援助
(自力でトイレに行けなくなる)
- 体動不能による苦痛の緩和
(マッサージ、体位変換、気分転換)



12-1)-(2) 経口摂取

- 誤嚥の防止
- 口腔内の乾燥に対するケア
- 食べられないことないことについての家族への説明



12-1)-(3) 呼吸困難

- 安楽ポジション
- 日常生活介助
- 酸素投与
- 不安や恐怖に対する援助
- 薬物療法に対する評価
- セデーションに対する援助



12-1)-(4) 痛み

- 増強する痛みの評価
- 増強する痛みに対する不安や恐怖
- 薬物投与の再評価
(脱水、傾眠、せん妄、尿量減少時のモルヒネの投与)
- 意識低下やせん妄がみられる状態での痛みの評価(訴え、体動、苦痛様顔貌)



12-1)-(5) 意識障害

- 患者とのコミュニケーションがとりにくい状況での意思決定
- その人らしさ、意向、尊厳を保つことを重視する
- キーパーソンの協力を得ること
- 家族のケア



12-1)-(6) せん妄

- 原因が特定されるか評価する
(薬剤性、高カルシウム血症、感染症、脳転移など)
- 薬剤投与: ハロペリドール、ウィンタミン
- 事故防止に努める
- 本来のその人らしさを重視する
- 家族ケア



12-1)-(7) 死前喘鳴

- 気道内の分泌物の除去
(体位変換、スコポラミン、吸引)
- 家族への説明



12-1)-(8)死の直前に起こる変化

- 呼吸：チェーンストークス、無呼吸、あえぎ呼吸、肩呼吸、下顎呼吸、呻吟、死前喘鳴
- 循環：脈緊張の低下、血圧低下、頻脈、末梢冷感、チアノーゼ、顔色不良
- 意識：反応の消失



評価

- 最後の数日間に出現する患者の身体的な変化に対応できる。



12-2) 家族ケア

- 目的

家族が患者の死を受容できるようにサポートする。

- 大項目

(1) 家族ケアの実際



12-2)-(1) 家族ケアの実際

- 患者の身体の変化を伝える。
- 家族の不安や悲嘆が表出できるように援助する。
- 具体的な看病について助言する。



評価

- 家族ケアが実践できる。



12-3) 死後のケア

- 目的

患者が苦痛から解放され、その人らしく旅立てるように身支度を整える。

- 大項目

(1) 家族への確認事項

(2) 死後のケアの実際



12-3)-(1) 家族への確認事項

- ケアへの参加の有無
- 着物の用意
- 身支度に関する希望
- 寝台車の手配



12-3)-(2) 死後のケアの実際

- ケアへの参加の有無
- 体内の排泄物・貯留物の除去
- 創傷の処置
- 体腔に弾綿を詰める
- 全身清拭
- 着衣
- 外観を整える
- お見送り



評価

- その人らしさを尊重した死後のケアができる。